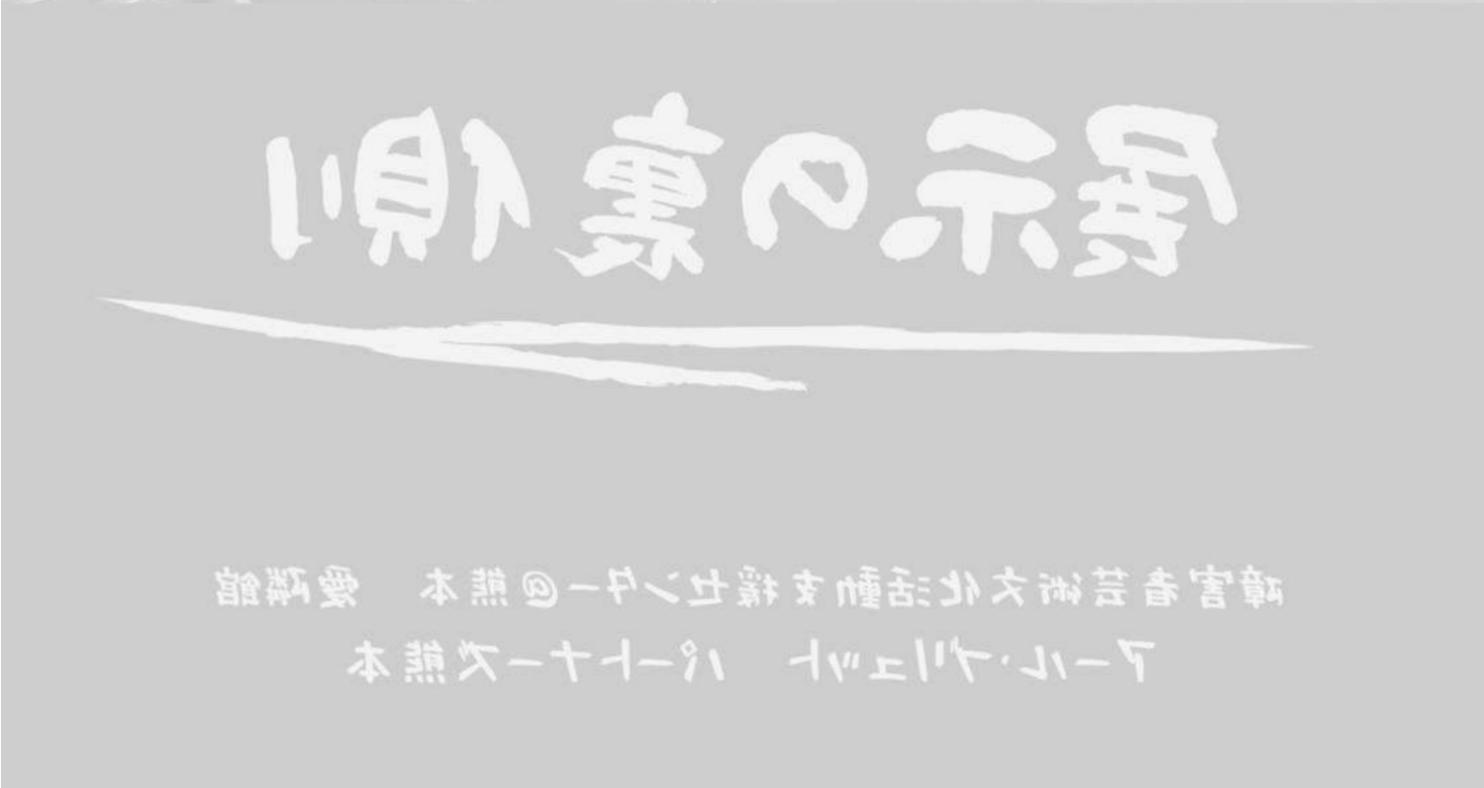




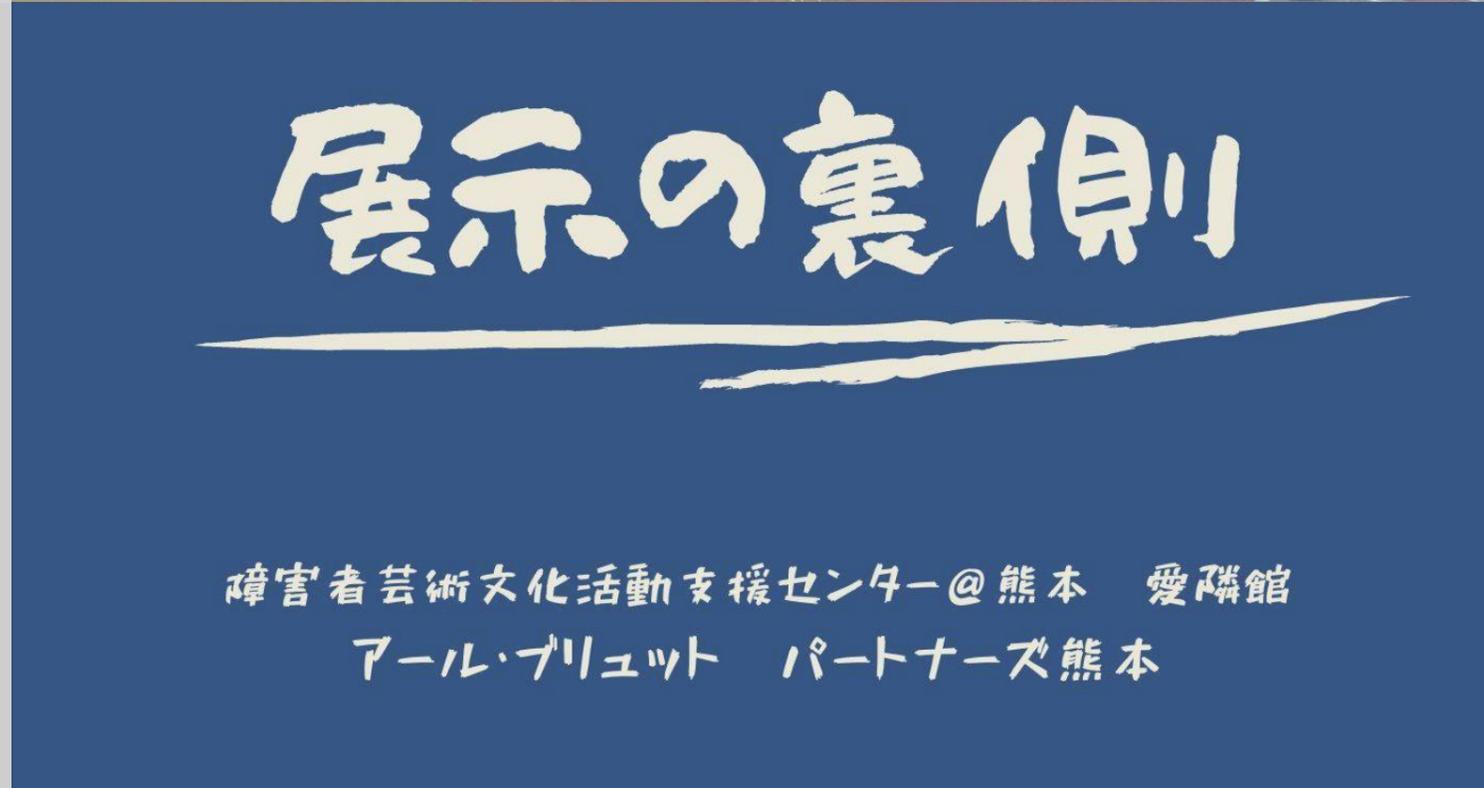
障害者芸術文化活動支援センター@熊本  
愛隣館

A  
Art Brut Partners Kumamoto



# 展示の裏側

愛隣館 熊本@障害者芸術文化活動支援センター  
熊本@アート・ブリュット パートナーズ熊本



# 展示の裏側

障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館  
アート・ブリュット パートナーズ熊本

## 目次

はじめに	1
歴 (発足からのあゆみ)	2
経験 (展示のふりかえり)	8
型 (展示案と実際の展示)	22
心得 (大切にしていること)	26
おわりに	29

はじめに

辞典によると、展示とは「作品などを並べて、多くの人に見せること。」を言うそうです。

「作品」とは、「制作した品。文芸・音楽・美術工芸などの芸術的制作物。」

では、「芸術的制作物」とは何？と考えます。制作者が芸術作品を生み出そうと思って制作したものだけが「作品」と呼べるのでしょうか。

私達はこれまで、制作の意図無く内なる衝動が様々な形で表出されたきたものに、驚かされ、考えさせられ、感動し、忘れられなくなり・・・何度もこのような経験をしてきました。

また同時に、作品が生まれ続けても、誰にも知られることなく、認められることなく保管されている、又は捨てられていく作品があることも知りました。

普段見ている作品でも、見る場所や見せ方が変わると、グッと輝きが増し、また違ったものに見えてくることも知りました。

この「展示の裏側」では、私達が7年前に芸術活動支援を始めてから、色々な場所で行ってきた展示をご紹介します。

この過程は、展示初心者だった私達が、専門家にアドバイスを頂きながら、また、プロの展示を間近で見ながら、そのスキルを高めてきた軌跡です。

日常の生活や企画展など、これから作品展示を考えている人のお役に立つように、そして、まだ見ぬ作品が世の多くの方々に披露され伝わるように、この本をまとめました。

今後の芸術活動支援にご活用頂ければ幸いです。

障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館  
センター次長 納富 久



# 歴 止

平成26年1月26日 アール・ブリュット パートナース熊本 創立

平成26年

10月8日

八千代座一日美術館 作家7名 来場者321名

講演【まなざしの行方～「アール・ブリュットジャパン展」からの気づき】

講師：藏座江美氏

12月～3月

アール・ブリュット移動美術館 県内16ヶ所

平成27年

11月17～23日

生の芸術 Art Brut 展覧会 作家11名 来場者2,008名  
於：熊本県立美術館 分館

11月20日

講演【アール・ブリュットの現在と未来】於：アートロフト  
講師：東京国立近代美術館 主任研究員 保坂健二郎氏

トーク【教えて 保坂さん！】 コーディネーター 岩下 勉氏

10月～1月

アール・ブリュット移動美術館 県内15ヶ所

平成28年

4月2～5日

アール・ブリュット移動美術館 作家5名  
於：ウエルパルクまもと

4月13日

講演【くまもと発 アール・ブリュットが伝えるもの】  
アール・ブリュットパートナーズ熊本 事務局長 三浦貴子  
於：熊日生涯学習プラザ

7月15～29日

アール・ブリュット移動美術館 作家6名  
於：天寿園 Neo

7月21日

講演【くまもと発 アール・ブリュット（生の芸術）】  
アール・ブリュットパートナーズ熊本 会長 西島喜義 於：天寿園 Neo

8月8～26日

アール・ブリュット移動美術館 作家1名  
於：熊本県庁 地下通路

12月1～11日

生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.2 作家20名  
来場者1,909名 於：豊前街道天聴の蔵

12月16～17日

アール・ブリュット移動美術館 作家13名  
来場者172名 於：益城町木山仮設団地みんなの家

平成29年

- 1月13~14日 アール・ブリュット移動美術館 作家13名  
来場者253名 於：西原村小森仮設団地みんなの家
- 2月8~11日 生の芸術 Art Brut 巡回展 作家20名  
於：やつしろハーモニーホール
- 8月15日 JICA事業 連携展示  
於：くまもと県民交流館 パレア
- 8月16~25日 アール・ブリュット移動美術館 作家1名  
於：熊本県庁 地下通路
- 9月22日 講演【アール・ブリュット(生の芸術)くまもと発】  
アール・ブリュットパートナーズ 熊本 納富久 於：メルパルクくまもと
- 10月3~15日 生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.3 作家21名  
来場者2,252名 於：熊本県立美術館 本館
- 10月7日 講演【アール・ブリュット その潮流と源流】  
講師：熊本県立美術館 学芸課長 村上 哲氏  
於：熊本県立美術館本館
- 10月21日 講演【くまもと発 アール・ブリュットってなに?】  
アール・ブリュットパートナーズ 熊本 会長 西島喜義 於：天寿園 Neo
- 11月8~14日 アール・ブリュット移動美術館 作家23名  
来場者479名 於：人吉クラフトパーク石野公園
- 12月3~4日 アール・ブリュット移動美術館 作家23名  
来場者277名 於：ANAクラウンプラザホテルニュースカイ
- 12月15~16日 アール・ブリュット移動美術館 作家23名  
来場者237名 於：城南町舞原仮設住宅みんなの家
- 12月18日 講演【厚生労働省障害者芸術文化普及支援事業とアール・ブリュットパートナーズ 熊本の取り組み】  
アール・ブリュットパートナーズ 熊本 事務局長 三浦貴子  
於：合志市社協れんがの家

平成30年

- 1月13日 講演【障害者の芸術活動と権利保障】  
講師：東俊裕氏 於：メルパルクくまもと
- 2月1~28日 松本寛庸作品展 ~My selection~  
来場者2,467名 於：山鹿灯笼民芸館

- 4月8～9日 アール・ブリュット移動美術館 作家6名  
於：ウェルパルクまもと
- 6月9～15日 くまもと・まち魅力向上協議会 連携展示 作家8名  
於：下通・上通
- 6月14日 講演【ナントのアール・ブリュット ジャポネ展を訪ねて】  
講師：真武真喜子氏 於くまもと県民交流館パレア
- 8月9～22 アール・ブリュット移動美術館 作家1名  
於：熊本県庁 地下通路
- 10月2～14日 生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.4 作家21名  
来場者2,056名 於：熊本県立美術館 本館
- 10月20～21日 アール・ブリュット移動美術館 作家21名  
来場者106名 於：熊本保健科学大学
- 11月30～12月2日 アール・ブリュット移動美術館 作家22名  
来場者329名 於：天草教育会館
- 平成31年
- 2月12日 熊本市障がい者自立支援協議会就労部会講演  
アール・ブリュットパートナーズ 熊本 納富久 於：ウェルパルクまもと
- 2月14～15日 アール・ブリュット移動美術館  
於：ANAクラウンプラザホテルニュースカイ
- 2月27～3月3日 九州ブロック連携展示  
於：久留米シティプラザ
- 4月5日 児童通所支援事業所開所式にて移動美術館 作家7名
- 令和元年
- 6月2～9日 アール・ブリュット移動美術館 作家5名  
オハイエくまもと10周年記念 於：熊本県立劇場
- 7月27日 まちなか美術館 作家1名  
ゆかた祭り 於：サンロード新市街
- 8月1～14日 アール・ブリュット移動美術館 作家1名  
於：熊本県庁 地下通路

- 8月30日 講演【アール・ブリュット 生の芸術 ～作品と一人ひとりの物語～】  
アール・ブリュットパートナーズ 熊本 事務局長 三浦貴子  
於：ウェルパルクまもと
- 10月8～20日 生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.5 作家26名  
来場者2,025名 於：熊本県立美術館 本館
- 11月9～14日 アール・ブリュット移動美術館 作家27名  
サニーサイド秋祭り 於：サニーサイドアトリエ SUN
- 11月16～12月8日 KUMA BRUT! 作家10名  
於：Operation Table (北九州市)
- 11月23～24日 アール・ブリュット移動美術館 作家12名  
手をつなぐ育成会全国大会 於：熊本城ホール
- 12月4～9日 アール・ブリュット移動美術館 作家26名  
於：第二つつじヶ丘学園 ギャラリー小手毬
- 12月11～15日 チャレンジドと作家のものづくり展 作家8名  
NPO法人ひまわりとの連携 於：熊本県伝統工芸館
- 令和2年
- 1月18日 アール・ブリュット移動美術館 作家3名  
人権フェスティバル 於：熊本テルサ
- 1月27日 松本寛庸氏個展 展示・撤収 於：米田小学校体育館
- 9月16日 熊本県人権啓発WEB講座  
アール・ブリュットパートナーズ 熊本 事務局長 三浦貴子
- 10月6～18日 生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.6 作家22名  
来場者2,044名 於：熊本県立美術館 本館
- 11月1～7日 アール・ブリュット移動美術館 作家2名  
於：三岳公民館
- 令和3年
- 1月5～19日 アール・ブリュット移動美術館 作家2名  
於：熊本県庁 地下通路
- 2月16～28日 植田正美氏個展 展示・作品運搬  
於：鹿央物産館 万葉の風ギャラリー





# 経験

平成26年  
国指定重要文化財 山鹿八千代座(10月8日)



平成26年1月26日、熊本県内の障害のある人々の芸術活動を支援する市民団体「アール・ブリュット パートナーズ熊本」が発足しました。

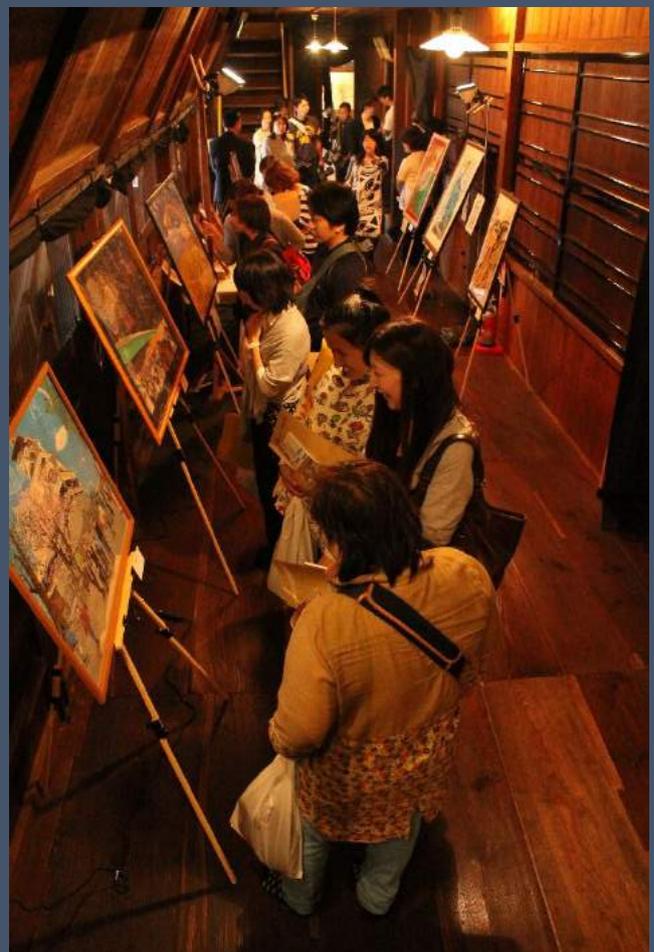
発足後初の展示会場となったのは、国指定重要文化財山鹿八千代でした。

伝統ある建物で展示の第一歩を学びました。

この時、キュレーティングして下さったのは、当時熊本市現代美術館の学芸員だった藏座江美氏でした。展示備品等は何も所有していなかったため、イーゼル等の備品を熊本市現代美術館からお借りして、初めての展示を行いました。

元々展示スペースではなく、壁面展示が適わない場所だったので、イーゼル展示しました。作品の高さを揃えることで、来場者が観覧しやすくなり、見た目もスッキリすることを学びました。

また、作品のキャプション(説明)を付けて、来場者に作品の情報を伝え、作品に拡がりを持たせることが出来ることを学びました。さらに、近くからだけでなく遠目からバランスを確認すること等も大切だと知りました。



# 平成26年 アール・ブリュット移動美術館

「あなたの街に生の芸術を届けます」というキャッチフレーズのもと、県内16箇所において2週間ずつ巡回展示しました。

この期間は事務局スタッフのみで展示を行い、会場の広さや雰囲気を見ながら、作品配置を考えました。その基本は、八千代座展示で学んだことであり、作品の見せ方やキャプションの位置決め等を試行錯誤しながら会場を作り上げました。



愛隣館



I.5gakuya

会場にはアンケート用紙を設置し、来場者の感想をまとめたものを作家にお渡しするようにしました。**感想を届けることにより**、作家・家族・支援者の**意欲の高まり**を感じました。その後の展覧会でも感想一覧をお渡しする取組を続けています。

作家の地元の郵便局やホテルでの展示により「**地元の作家**」としての認知度が高まり、障害のある人が地域の中で生きやすくなる取組となりました。

展示する前に、どのように展示するかを考えます。**壁掛け展示、イーゼル展示、卓上展示等**。その次に必要な備品を用意します。



熊本機能病院



上通り郵便局

**壁掛けにはワイヤー**、そうでない場合は**イーゼルの大きさ**と高さ。その他には、**テープ類**。作家や作品の紹介文等は、事前に準備しておく必要があります。**作品タイトルや制作年、使用画材等**も一覧にしておくこと、来場者が展示をより楽しめると思います。

平成27年  
熊本県立美術館分館（11月17日～23日）  
生の芸術 Art Brut 展覧会

活動開始後、初めて公立美術館の展示会場で展示を行いました。この時は、キュレーターの他に3名の展示専門業者スタッフ（日本通運美術部）にも来て頂いて、プロの技を目の当たりにしました。

「作品と作品の間を2ミリ離して」「あと5ミリ上」キュレーターの声に展示のプロが応える。バランスを見ながら、洗練された空間が作り上げられていきました。この時、**作品に合わせた壁掛け、イーゼル、卓上、天井吊り下げ等、様々なレイアウト**を学びました。

キュレーターは「**まず福祉施設職員の意識を変えたい**」と言われました。

福祉施設利用者が創作したものを、最初に目にするのは職員が多いと思います。その職員が棚の奥に入れてしまって終わりなのか、沢山の人の見てもらいたいと思って動き出すのか、利用者の未来がそこで変わります。

キュレーターからは、作家への敬意を表すために、**作品を触る時には白手袋を付ける**よう薦められました。素手で触ると汗や汚れて作品が傷み、**変色等の原因**になってしまうためです。利用者の創作物を触る時には白手袋を付けてから。不思議なことに、この習慣を続けていると、自然と**作家への敬意の気持ち**が生まれてきます。作品を乱暴に扱うことも無くなっていきます。

この時、キュレーターの評価基準の中に「**時間**」の概念がありました。どれくらいの時間をかけて作り上げたのか。作品の素晴らしさだけではなく、その**背景も魅力の一つ**と言えます。その**ストーリーの伝え方**も展示には必要かもしれません。別の言い方をすれば、**作品ではなく前面に押し出してストーリーを紹介する機会があっても良い**かもしれません。それだけ**一人一人に、紹介すべきストーリーとパワー**があると思います。



# 平成27年 アール・ブリュット移動美術館

この年は、自閉症啓発デーや福祉施設の開設、研修会など、別イベントとの協力事業として、移動美術館を開催することも増えました。作品の持つストーリー性にも焦点を当てて展示をしました。また、スタッフが現地に赴いて展示することが難しい時には、ネットワークメンバーの協力を得て、展示が実現しました。

展示の機会が増えてくるにつれ、額装をして展示したい、という要望が、作家・家族・支援者の中に増えてきました。しかし、額装には費用がかかるため、作品の保存場所の問題とともに、作家・家族・支援者が良い方法はないかと考えている課題です。



本会では、サイズの異なる予備の額を数点用意しており、額装されていない作品で希望する方に、**展示期間中のみ額を貸し出す**ようにしています。また、不要な額を譲り受け、修理等を加えて必要な人にお渡しする取組も行いました。これは、相談支援を行う中から形になったもので、**物だけでなく、家族、支援者同士の情報交換等にもつながる**ケースがあります。

額裏の紐を結ぶ際には、壁掛けのフックに当たらないよう、**結び目を端に寄せると**展示し易くなります。また、**紐が緩まないようにしっかりと結ぶ**ことも大切です。展示をする時には、額のサイズ（縦と横）に加えて、**紐の真ん中を上**に引っ張った位置と額上部からの長さを測っておくとフックの位置が決まって、展示がスムーズにいきます。



平成28年  
山鹿天聴の蔵(12月1日~11日)  
生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.2



日本の伝統的な建築様式、大正時代からの酒蔵を利用した会場で、キュレーターと展示専門業者に協力して頂き、展覧会場を作り上げました。

酒蔵時代に使われていた樽や蓋等、会場にあるものを上手く展示に取り入れ、旧酒蔵としての雰囲気を生かした展覧会の開催となりました。

出展作家の中に、パソコンで絵を作成する方がいたので、パソコンを設置し、スライドショーで流すようにしました。後の展覧会では、モニターと音楽を加え、より効果的に映像作品を見せるように工夫を重ねました。

絵を両面に描いた作品等で両面を見せたい時には、透明のアクリルケースに入れて天井から吊るすという方法も取り入れました。又は、卓上に設置し、来場者に手袋をつけてもらって、自由にひっくり返して裏面を見る方法も行いました。

型にとらわれない作家たちの作品に対し、型にとらわれない展示方法で素敵な会場が出来上がりました。また、旧酒蔵(伝統建築)は、美術館での鑑賞と違い身近に作品を見ることができ、まるで時間が止まったような、ここにしかない特別な空間を感じることができました。アンケートでも多くの反響がありました。



# 平成28年 アール・ブリュット移動美術館

この年は、展示要望のある会場に加えて、被災地の仮設団地集会所（みんなの家）で展示を行いました。

自閉症啓発デーに合わせた展示では、**世界自閉症啓発デーのブルーライトアップ**に合わせて、青の敷物、風船等で雰囲気作りを行いました。また、壁面がカラー別になっている会場では、**作家毎にカラー**を決めて、展示しました。



ウェルパルクまもと



天寿園 Neo

被災地のみんなの家は多目的施設で、展示専用施設ではないので、会場内にあるものを上手く使い、不要なものは**発砲スチロールパネルの壁**で隠しました。雰囲気が変わり、住民の皆さんには、大変喜んで頂きました。

日光がよく入る会場では、**作品への直射日光を避けるための対策**も行いました。直射日光は作品を傷めるため、必ず対策が必要です。

展覧会の巡回展を県南八代で開催しました。協力施設から、展示備品や人員の協力を得て、大きな会場に1日ばかりで展示することができました。

広い会場では、**テーマ毎、作家毎に区切る**ことで、来場者が観覧しやすい会場になります。また、壁面を作り、**通路を作る**ことで、来場者の流れができ、人同士がぶつからず、作品鑑賞に集中することができます。



木山仮設団地



西原村仮設団地



やつしろハーモニーホール

必要な場合には、**展示用の什器を作成**して、作品が最も良く見える方法を考える必要があります。

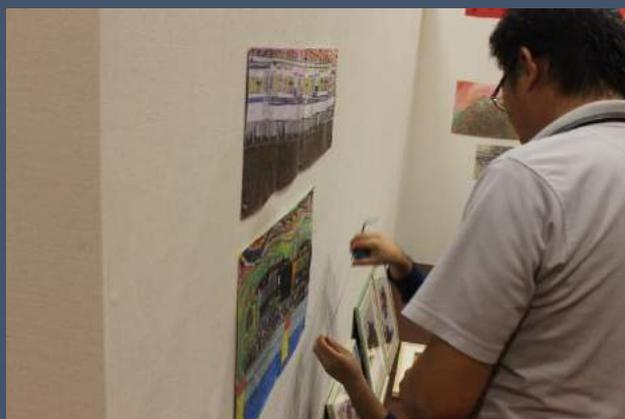
平成29年  
熊本県立美術館 本館（10月3日～15日）  
生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.3

熊本県立美術館本館で展示することができるようになりました。この年から、キュレーティングはインディペンデントキュレーターの真武真喜子氏と、会場作りをインスタレーションアーティストの坂崎隆一氏に協力してもらうことになりました。

まず、会場に壁面展示設置用の壁を組み立てることから始まりました。作品を邪魔しない白の壁紙と強調したい部分には色のついた壁紙を貼りました。他との差異を出すために、壁紙の色を変えて視覚的に違いを見せることも有効な手段だと感じました。



参加したメンバーは、メジャーを片手に作品を一定間隔で展示しましたが、2人組で進めた方が、効率が良さそうでした。



額装しなかった作品は、画鋸を刺した壁に作品を磁石で押さえる方法で展示しました。額装されていない作品の展示方法の一つとして、このような方法があることも知りました。

また、プロは画鋸の位置を決める時には、作品サイズや磁石で留める位置等を全て計測、計算していることに驚きました。作品を良く見せるために、一切妥協しない姿勢を目の当たりにし

ました。同様に壁掛け用のフックの位置についても、額の裏の紐の緩み具合やフックがどの位置にくるのか、計測して決めていました。1つ1つの展示が、そのように計算されており、洗練された会場になっていることを再認識しました。

## 平成29年 アール・ブリュット移動美術館

JICA 事業「タイにおける知的障がい児支援人材育成プロジェクト」の一環として、タイの作家を招いて、タイと日本の作品を展示、協力しました。作品数が事前に聞いていたものよりも多く、急遽壁面の数を増やし、壁の両面に作品を吊るすことで多くの作品を展示することができました。



ショーケースの展示は、見栄えが良く作品の保護にも適していますが、見る人と作品の位置が少し遠く、細部が見えにくいということがあります。今回は新たに壁面を設けることで解決しました。照明との関係もありますが、可能であるなら、来場者に細部まで見てもらい、その作品の魅力を伝えたいということで、今回の方法を採用しました。

展示をする時には、来場者の目線の高さを考えます。立って見る人もいれば、車椅子で見る人もいて、目線の高さは人それぞれです。その中で展示を行わなければならないので、専門家のアドバイスをもとに、床から「135cm」を一つの基準として、作品中心部の高さを決めています。



照明があたる会場では、光の当たり方によっては、額面に反射して作品が見えづらくなる場所が生まれます。光の強弱や作品の位置や向きを変える等の対策が必要になります。

展示し終えた後の全体のバランス確認の時には、作品の位置やズレ、照明の当たり方等を確認し、来場者が作品観覧に集中できる会場を作ることが大切です。

平成30年  
熊本県立美術館 本館（10月2日～14日）  
生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.4



前年に続き、2回目の会場です。

展覧会場には**作家の顔写真と紹介文も一緒に展示**するようにしています。これは、作家・作品のことを知って、鑑賞を楽しんでもらうことに由来しますが、**来場者の多くは、それぞれのストーリーに想いを馳せ、心打たれている様子**でした。家族に障害をもつ人がいる方からは、**勇気をもらった**という感想を何度も聞きました。来場者一人一人が様々な想いをもって会場を後にする、展覧会を開催する意義を改めて感じています。

作家や作品を紹介する**キャプションは、ラミネート加工やハレパネに貼る等の方法**がありますが、**透明シートに印刷して直接壁に貼り付ける方法**もあります。しかし、透明シートを真っすぐ壁紙に貼ることが難しく、一度貼るとやり直しが出来ないので、工夫が必要です。この場合、薄いアクリル板等に一度貼ってから、壁に設置すると見栄え良くできます。

作品によっては、**植物等を使用した作品**もありますが、**重要文化財等を扱う美術館では、虫の侵入を防ぐために展示できないものもあります**。美術館内で虫が繁殖すると高価な美術品に虫食いの穴が空く等の被害が出るそうです。そのため、作品の搬入、搬出時にも注意する必要があります。事前に会場担当者に、どのような作品なのか、詳細等を伝えておくとも良いかもしれません。

## 平成30年 アール・ブリュット移動美術館

この年は、まちなかのアーケードに展示することが決まりました。アーケード内で屋根のある所とはいえ、屋外での展示だったので、準備段階から何度も対策について話し合いました。その結果、レンタルしたショーケース内に作品を展示、作品近くにはスタッフを配置し、緊急事態には対処できるようにしました。また、直射日光が当たるところは避けましたが、西日など心配な所には額面のガラスを遮光ガラスに入れ替える等の対策を行いました。

次年度も同じようにまちなかで展示する機会がありました。ショーケースのレンタルが高価なため、ショーケースは使用できませんでした。そこで、レプリカを作成し、レプリカの展示を行いました。原画の価値を下げないように、レプリカ（デジタルプリント）の出来にもこだわり、色校正を何度も行い、展示が実現しました。

これらの展示の根底にあるのは、「原画の価値を高め、結果的に障害のある人たちが社会で認められる」ことを目指しているということです。



ウエルパ 熊本もと



下通



熊本保健科学大学



天草教育会館

スタッフの意識を、福祉施設職員の意識を、作品を観た人の意識を少しずつ変えていくことで、障害のある人々が社会で対等に生きられるよう、取組を続けています。この取組に多くの人を巻き込み、「我が事」として、障害に対する社会意識を変えていきたいと思っています。沢山の人たちが関わることで「アール・ブリュット」の価値や評価が更に高まり、人と人との繋がりができ、やがて地域に根付いた取組となることを心から願いながらの活動です。

令和元年  
熊本県立美術館 本館（10月8日～20日）  
生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.5

3回目の会場です。

作品の運搬には、十分気を付けなければいけません。運搬中には作品に負荷が加わるため、破損の恐れが高まります。そのため、**運搬前には梱包をしっかりとしておく必要があります**、運搬中も出来るだけ衝撃を受けないよう、**積み方にも工夫が必要です**。

また、展示案が事前に分かっているならば、**梱包材の上に作家名や作品名、展示場所等を記載しておく**と、会場で作品を並べる際、とても分かりやすく展示準備の時間を減らせます。また、梱包材に作家名が書かれていると、撤収時に作品に合った梱包材を使えるので、スムーズに撤収作業が行えます。次に展覧会を控えている場合には、次の準備作業のことも考え、撤収すると負担が減ると思います。

梱包材を留める際、数あるテープの種類からどのテープを使うのか、用途に合わせて使い分けことが望ましいです。**布テープ**は粘着力が強く、開梱する時に梱包材を破いてしまいます。そういった時には、少し粘着力の弱い「養生テープ」を使い、梱包します。また、壁にテープを貼る場合も、直接粘着力の強いテープを貼るのではなく、粘着力の弱い「**マスキングテープ**」を貼ったうえに、強い粘着力のテープを貼ります。そうすることで、壁面等を傷つけることなくテープをはがすことができます。



# 令和元年 アール・ブリュット移動美術館

作品を額に入れて固定する時やアクリル板に直接作品を固定する時にも、粘着力の弱いテープを使います。しかし、それでも粘着により作品に負荷をかけてしまう恐れがある時には、粘着力の弱いテープを数回ズボン等に貼って剥がす、を繰り返すことで粘着力が更に弱まり、作品を傷つけることなく固定することができます。

「Art Brut 生の芸術」のぼり旗を使用することで、展示スペースを明確に示すことができました。のぼり旗は、戸外でも遠目からでも、どこで開催しているかを確認出来、来場者のスムーズな来場と観覧につながりました。建物が広い場合、他の団体と同会場で差別化したい場合等、有効な手段だと思えます。

また、これまで移動美術館として様々な場所に展示を行って来て、展示をする前の何気ない空間が、展示後にはアート（芸術）空間に様変わりする様を目の当たりにしてきました。アール・ブリュット作品の力を再確認する時です。



熊本県立劇場



Operation Table



サニーサイド アトリエ SUN



熊本県伝統工芸館



第二つつじヶ丘学園  
ギャラリー小手埜



熊本城ホール

展示会の開催には、大きく分けて「発表の機会」と「評価の機会」の2つの意味があります。これまで誰の目にも触れられなかった作品を、世の中の人に見てもらう「発表の機会」。作り出したものにどのような価値があるのかを考える「評価の機会」。作品を観た人が

「作品を通して、その人を知る機会」とも言えます。私たちは、この芸術活動支援を通して、障害のある人々がより生きやすくなる社会になることを願っています。

「展示・展示会は手段であって、目的であってはならない」

本会発足時のキュレーターの言葉が、私たちの進むべき道を照らしてくれています。



熊本テルサ

令和2年  
熊本県立美術館 本館（10月6日～18日）  
生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.6



4回目となる熊本県立美術館の会場です。

コロナ禍の影響で、開催が危ぶまれた状況でしたが、開催1週間前から段階的に壁面設置、壁紙貼り、展示のスキルを学びながら会場を作り上げました。

コロナ対策として、会場内に順路を設け、密とならないように作品を配置する等、これまで以上に様々なことに気を配りながらの展示でした。特に会場が密にならないように、整理券などを使用し入場制限を行いました。

通常の展示とは別に、コロナ対策としてインターネットを使った取組の準備も進めてきました。インターネット上で作家紹介、作家の制作風景動画を公開、キュレーターのギャラリーツアーを公開、感想記入フォーム等、会場に來れない人でもインターネットを通して展覧会を楽しめるように工夫しました。制作風景動画は、入場制限のかかる待合場所にモニターを設置し、待ち時間でも退屈しないように配慮しました。

このような対策は、コロナ禍に限らず、これからも行って行きたいと考えます。会場に行けない方でも展示作品を楽しめる方法として、更に工夫していく必要があります。



# 型

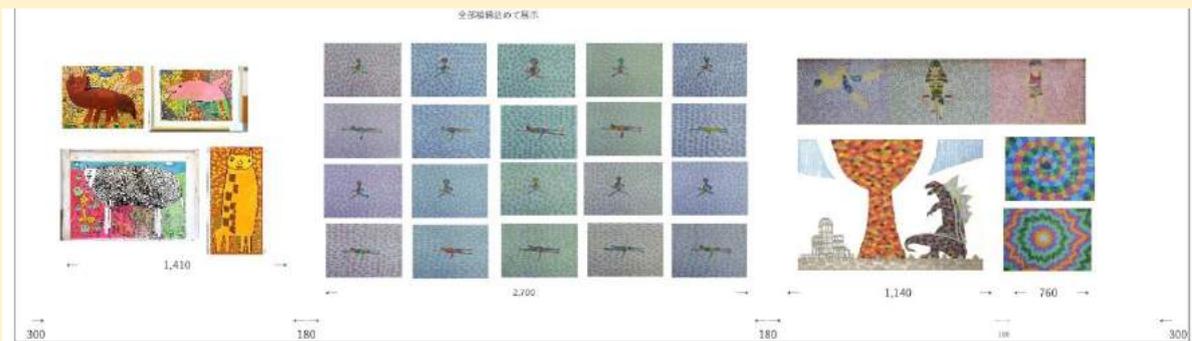


## パネル A



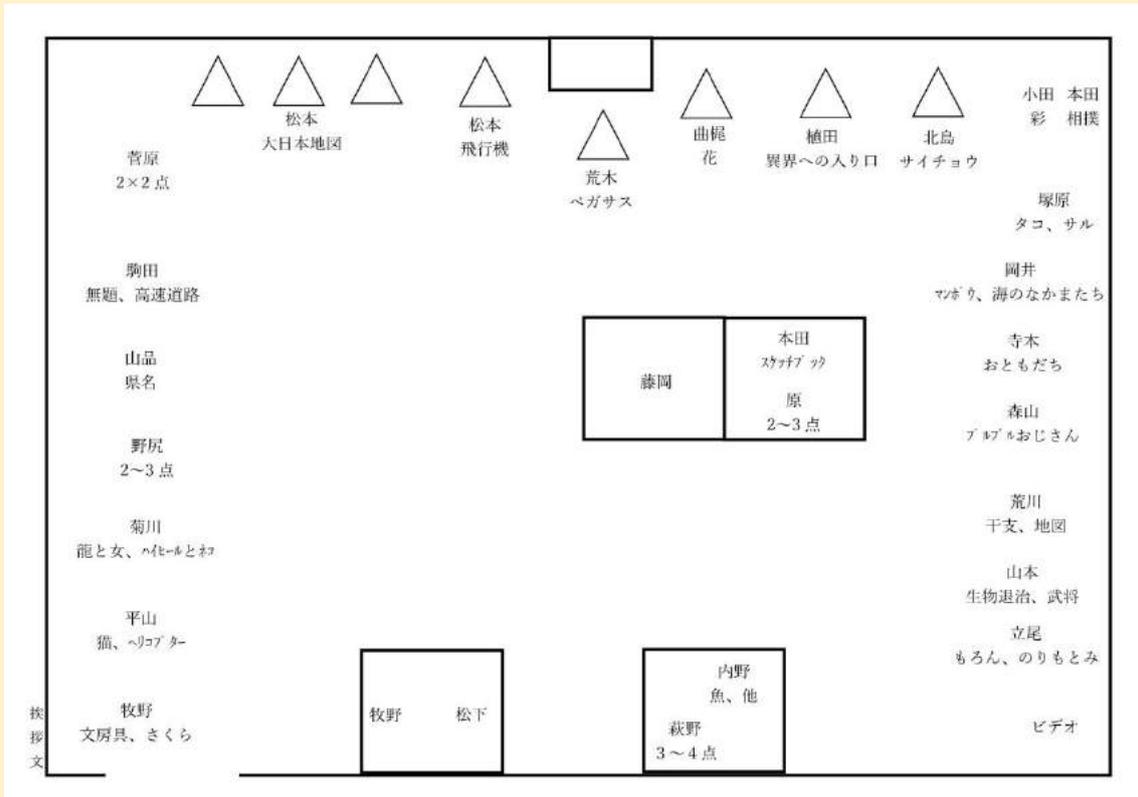
展示案と実際の展示には、少し違いがあります。展示のバランスを見ながら微調整等をしたからです。また、展示案には無い、作家の写真、紹介文、作品の紹介パネルも実際には展示するので、スペース等を見ながら展示していく必要があります。

## パネル F



●移動美術館 サニーサイド「アトリエ SUN」

事前の準備に時間をかけて、展示準備に係るスタッフがスムーズに動ける時は良いですが、それが難しい時には配置場所だけでも決めておくと、当日会場入りしてから慌てなくて済みます。また、必要作品数や必要備品も予想できるので、運搬作業の負担も減ります。



# 心得

## ごあいさつ

5年前の冬、私たちは幸運にもArt Brutに出会いました。  
鮮やかな色彩、個性豊か…このような言葉だけでは表現しきれない  
作品群、その奥に秘められたものに触れて、私たちの内なるものが震え、  
共感したような気がしました。

「生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.4」を迎える21人の作家は、いずれ  
も熊本で生きる人たちです。このうち初めての出展は9歳の男の子を  
含む7人、障害のある人たちが自由に創作した約120点を紹介します。

一瞬一瞬がつながって一人ひとりの人生が形づくられるとすれば、  
一見すると無造作に引かれた線の1本1本が、それぞれの作家の魂の  
表現にほかなりません。  
これらの創造性あふれる作品のひとつひとつが多岐の人と出会い、長  
い「つながり」を築きかけになることを願っています。

主催：アール・ブリュット パートナース熊本  
会長 西島晋義

生の芸術 Art Brut 展覧会 vol.4  
キュレーター 真武真希子 インスタレーションアーティスト：坂崎健一

## 「アール・ブリュット パートナース熊本とは」

2011年（平成23）年7月から翌年2月まで開かれた「アール・ブリュット・ジャポ  
ン展」（熊本県現代美術館）をきっかけに2014年1月発足。  
障害のある人たちの芸術活動を推進するため、芸術して生きる環境づくり、評価  
する環境づくり、芸術・福祉・教育・行政などのネットワークを築く活動によ  
って、障害のある人たちの自己と社会参加を促進し、共に生きる社会の実現を目指  
す団体です。会員は16人、登録作家は80人（2019年）。具体的には以下の活動を行  
っています。

- ① 芸術活動の促進
- ② 作家、作品の調査と発掘
- ③ ネットワークづくり

## 作品を展示するまでに

1. 何のために展示、展覧会を開催するのか、目的を明確化する。
2. 展示、展覧会を開催する会場となる期間を決める。
3. 目的に沿った基準に従い、又会場の広さに基づいて展示作品と作品数を決める。
4. 集まった作品の破損等が無いが、状態を確認する。
5. 集まった作品の「作家名」「タイトル」「制作年」「使用画材」等必要な情報をまとめておく。
6. 展示・展覧会の期間・会場・作品数が決まったら保険をかける。
7. 作品を基に展示案を考える。
8. 展示案を基に必要な備品、什器の準備をする。
9. 運搬等で作品に負荷がかからないように梱包する。

### その他

- 展示・展覧会の開催を周知するためにポスター・チラシ等の作成を行う。
- 広報の手段について考える。プレスリリース。協力団体への依頼。
- 展示・展覧会期間中のイベントの調整・準備。対応マニュアルの作成。

## 作品の取り扱いに関して

### 大事にしていること

#### 1. 作品の取り扱いに関して

- (1) 作品を借り受ける時には、契約書を作成し、書面による作家の権利保護を行う。
- (2) 作品に保険をかける。(作品展示期間と準備、撤収の期間)
- (3) 作品に敬意を示し、作品を保護する(手の汚れ、皮脂をつけない)ため、手袋を着用して取り扱う。
- (4) 借り受けた作品の保管は、日の当たらない(紫外線防止)、湿度の低い場所に鍵をかけて保管する。
- (5) 作品移送は、梱包材による作品の保護とともに、保険をかけて実施する。

#### 2. 展示に関して

- (1) キャプションの作成、作品と額の確認(汚れ、緩みなど)を行う。
- (2) 展覧会の展示は、原則としてキュレーター(学芸員等)、専門業者が行う。
- (3) 移動美術館等では、作品の中心部が床上135cmとなることを基本に展示する。
- (4) 額装されている作品を展示する場合、高さ、又は額の端を揃える。
- (5) 展示会場内での写真撮影について、フラッシュは厳禁であることを伝える。
- (6) 日光の入る明るい場所での展示は特に配慮し、最短期間に留める。場合によって、遮光アクリルを入れて、作品への負荷を軽減する。作家の許可を得られるならば、レプリカ作成・展示も検討する。

#### 3. その他

- ・展覧会時には、観覧者に感想の記入をお願いし、一覧にして作家・支援者に送る。  
(作品と観覧者のメッセージのやりとり、コミュニケーションを重視する)
- ・作家、支援者と連絡を密にし、必要時には専門家と連携して、意向に添う支援を心掛ける。

おわりに

「展示の裏側」を手にとって頂き感謝申し上げます。

この冊子は、8年間の実践による私達の学びを、障害者の芸術文化活動を支援する福祉施設等の仲間たちに伝えたいとスタッフ自ら企画いたしました。

そもそも「展示論」という科目もある程の奥行きです。学芸員やインスタレーションアーティストの方々に教えて頂きながら、必死に作品展示してきた社会福祉士や介護福祉士が語って良いことなのかと迷いもしました。

しかし、美術系プロの人々の作品を観る目と探求心、一切の妥協なく、工夫と最善を尽くす姿勢、その積み重ねであるスキルに「展示」の過程で触れ、このことを福祉の現場と共有するのが私達の仕事だと感じたのです。

作家の一番近くにいる障害福祉サービス職員等が展示を知るとは、障害のある作家の作品の評価の機会を作り、自己実現・可能性を拓けることにつながります。

数十年と生活を支援してきても、社会に向けて利用者の方々の「可能性を拓ける」機会はそう多くありません。だからこそ私達支援者の視野を拓け、多様な方々とつながることが必要なのだと思います。

ささやかな冊子ですが、美術系の方々との常識の違いにまっ青になったり、赤面したりしながら、作家の喜びを力に、一歩ずつ進めてきた歩みをご一読頂ければ幸いです。

障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館  
センター長 三浦貴子

## 「展示の裏側」

(企画・編集)

社会福祉法人 愛隣園 障害者支援施設 愛隣館  
《アール・ブリュット パートナーズ熊本》

〒861-0551 熊本県山鹿市津留 2022 <http://aileans.com/saca/>  
Tel:0968-43-2771 Fax:0968-43-2793 Mail:ailinkan@magma.jp

(編集責任者)

三浦貴子

(企画・構成)

納富久・堀田直美・久武康博・松本薫

(印刷・製本)

株式会社トライ

(助成)

令和2年度厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業  
(熊本県障がい者芸術文化活動普及支援事業)